

1. 総括

今年度 A チーム 4 名、B チーム 7 名の 11 名でスタートした。

A チームでは、自閉症スペクトラムの方々が見通しをもって自立した活動ができるよう支援をすすめた。家庭より要望の多い運動量の増加を目指して室内運動の整備を行ったり、散歩コースの再検討や、やまくらぶでのより負荷のかかる歩行を行ってきた。

また、ATM の清掃作業では、担当する吉岡さんに応じた指示書の作成を行い、自立して丁寧な作業が取り組んでいる。

一方 B チームでは、天気の良い日には必ず外に出る活動に取り組み、わんこのおやつやペン作業の注文が来た際には納期に合わせた作業を組み立てた。創作クラブも定着し、創作活動を毎日のように取り組む方もいた。できあがった作品が様々な展覧会に入選することもあり、コーヒーパッケージにも採用されるなど、創作クラブでの活躍が目覚ましい一年となった。

また、相談支援事業所や他事業所、県の障害者総合相談支援センター等、他機関と連携をしてケース会議を開いて支援の方向性を共有する事例も複数あり、本人の情報共有や今後の支援方針等、より良い支援に向けて検討が深められていると思う。

今年度は緊急事態宣言中の実習生の受け入れが中止となるなど、コロナ禍での外部とのやり取りも難しい一年だった。課題となる利用者の拡大については、来年度新規の利用予定者はいない。事業所についての情報を外に向けて発信したり、足を運んでダックを知ってもらう必要があると思われる。

職員のスキル向上に向けては、年度途中から大妻女子大学人間関係学部助教授縄岡好晴氏による縄岡セミナーを 4 回実施。日頃の支援についての振り返りを専門的な視点で客観的に見ることができた。今後も継続して、チーム支援の向上につなげたい。

今までに経験したことのないコロナ禍。感染症対策を講じながらの支援は、心配や不安も多くあったが、これからも感染症対策を継続しながら、利用者さんの最低限の日常生活の保障を続けていきたい。

2. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働日数	21	21	22	21	19	20	22	20	21	21	18	23	249
延利用者数	215	202	224	212	187	198	203	184	196	201	181	218	2,421
1日平均利用者数	10	9.6	10	10	9.8	9.9	9.2	9.2	9.3	9.6	10	9.5	9.723

※主な欠席理由…体調不良、精神不安定、家事都合、他事業所と併用利用

利用者障害程度区分 (令和3年4月現在)

区分3	区分4	区分5	区分6
1人	4人	1人	5人

※平均区分 4.9

3. 担当職員 (5.4名)

サービス管理責任者：青木

看護職員：板鼻

生活支援員：後藤、吉田、富澤、降矢(週3)、井端(月1)

運 転 手：宇賀神

4. 年間支援実施内容

・日課 Bチーム

9:30 受け入れ・検温

9:50 朝の会・ラジオ体操・掃除

10:15 お茶

10:30 午前の活動

月：ATM 清掃・散歩、火：散歩、水：ATM 清掃・散歩

木：散歩、金：ATM 清掃・散歩

～不定期：ゼブラ納品ドライブ～

12:00 昼食・はみがき

12:30 昼休み～1Fに降りて過ごす～

13:00 午後の活動・検温

月：創作・下請け、火：創作・クリーンセンター

水：創作・下請け

木：創作・下請け、金：創作・クリーンセンター

15:15 お茶
15:30 帰りの会
15:50 送迎

※Aチームは、個別のスケジュールを組み立てパターン化しないよう毎日スケジュールを変更した。また、スケジュールを課題、掃除、運動の時間に分け、個別活動も個別支援計画に基づき見直しを行った。

- ・創作クラブ（第2、第4金曜）
- ・やまくらぶ（毛呂山、富士山公園、森林公園トリムコース、多気山、高鳥屋山）
- ・下請け作業（ペン・わんこ）
- ・役割分担（日直、お茶運び、コップ運び、ラジオ体操、挨拶係）
- ・レクリエーション（黒ひげ、ジェンガ、パズルなど）
- ・個別対応（足湯、ドライブ、自販機買い物、相談支援）
- ・余暇活動
4月 お花見
6月 井頭公園散策（アスレチック、サイクリング）
7月 出前食事会
8月 夏祭り
9月 とちの木ファミリーランド
10月 八幡山公園散策
11月 なかがわ水遊園
12月 クリスマス会
2月 節分豆まきと恵方巻（麩菓子）丸かぶり
3月 ひな祭り
その他、毎月工賃支給日の買物を実施した。

5. 成果と課題

(1) 日中活動支援

日 課

- 成果
- ・予定の確認を行うことで何をして過ごすのか見通しが持てている。
 - ・昼食時、感染症対策のため黙食できるようCDをかけるようにし習慣づけることができた。
 - ・Aチームでは、変化に合わせてその都度スケジュールや活動内容、環境調整の見直しができる。
 - ・笑顔も多く、楽しくすごせた。

- 課題
- ・Aチーム、Bチームと一緒に活動する枠があってもいいのではないか。

(ex. 運動、レク等)

- ・Bチームでは、ワンパターンになりがちな活動の幅を広げたい。
- ・Aチームでの、新しい課題をはじめるときや見守りが必要なとき、コミュニケーションが必要なときに取り組む1 to 1の実施方法に課題。有効に行えていない。

軽作業

【わんこのおやつ製造】 年間売上 76,200円(昨年度8割減)

課題 ・受注量の大幅な減少。ダックでも営業が必要か検討が必要。

【ATM清掃作業】 作業工賃 187,420円/年(昨年度3倍増し)

成果 ・今年度からATM清掃をすべてダックで引き受け取り組んだ。
・利用者さんに合わせて清掃のワークシステムを作り取り組めた。

課題 ・取り組める利用者を増やす。

【リサイクル作業】

課題 ・新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見込めないため、感染症予防の観点から、次年度以降もペットボトルの分別作業はできない。ペンの下請け作業やわんこのおやつ、ATMの清掃など、安定した収益を得られる作業も増えてきたため、リサイクル作業は廃止にする。

【ゼブラ下請け作業】 作業工賃 148,200円/年

成果 ・受注が増えた。
・従事することが難しくてもやってみたいと意欲を持つ利用者もいる。
・ATM清掃作業の工賃増加と合わせて今年度もボーナスを支給できた。
・さらには、工賃を倍増する可能性も出てきた。

余暇支援

成果 ・活動中は換気をしたりマスクをつけたり、対面を避けるなど、対策を取ったうえで余暇活動を楽しむことができた。
・クリスマス会ではボランティアさんに大道芸のパフォーマンスを披露していただき、とても盛り上がった。
・外出の活動の場合、日中の送迎の配車の関係でウェルフェアから車を借りることがあった。ウェルフェアから車を借りられる日が火・木に限定されるため、余暇活動も火・木で実施した。

課題 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になったり、場所を変更した活動があった。
・感染症対策での活動制限は今後もしばらくの間続くと思われる。

創作クラブ

成果 ・月2回(第2、第4金曜)外部講師を迎えたクラブの実施。緊急事態宣言中は講師のお休みはあったが活動は継続した。

- 作品展への応募ができた。
 - 武蔵野アールブリュット展 波木さん入賞
 - きょうされんグッズコンクール 残念ながら落選してしまいました。
 - 栃木県障害者芸術展「Viewing 展2021 @もうひとつの美術館」
波木さん、田中さん、吉岡さん、渡邊さん入賞
- 活動が認められ清水基金、栃木コープから助成金をもらうことができた。

- 課題
- 作品の保管方法や著作権の検討
 - まだまだ創作意欲を引き出すかわりや、やり取りが必要。

やまくらぶ（廣田さん、吉岡さん、渡邊さん、平野さん、田中さん、金田さん）
肥満・運動不足解消すること、また自然の中で心安らく時間を感じ取ることを目的に不定期ではあったが活動を開始した。

- 成果
- 運動不足解消になり、健康、体力の維持につなげることができた。
 - 次何処へ行きたいなど楽しみ、意欲的に取り組んでいる。
- 課題
- 天候の影響や思い付きの実施で計画性がなかった。
 - 肥満対策も目的の一つとしてあるが、減量にはつながっていない。
 - 弁当持ち出ないと行先に限界がある。

(2) 生活支援

生活体験（トイレ掃除、買い物、窓拭き、裁縫、洗濯など）

- 成果
- 工賃買い物では、自分で買いたいものを選択できる方が増えた。
 - 新たに裁縫を取り入れた。簡単な雑巾縫い等に取り組んだ
- 課題
- 工賃買い物では要求をうまく引き出せず同じような買い物に終わってしまった。
 - 感染症対策で行動が制限されがちであった。
 - 具体的な生活につながる体験を増やしたい。（インスタントコーヒーを自分でいれる、カップラーメンを自分で作る、サンドイッチを作る等）。

健康管理（体温測定、血圧測定、体重測定、口腔ケア、定期健康診断、インフルエンザ予防接種、感染症予防の啓発など）

- 成果
- 新型コロナウイルス緊急包括支援交付金の交付を受け、感染予防対策備蓄品（アルコール、フェイスシールド、ゴーグルなど）の購入を必要十分に行った。
 - 新しい生活様式「かぬまの事業所応援事業」の助成を受けてアクリル板、消毒台などを設置した。
 - 手洗いうがいも継続できていて、散歩などで体も動かし、健康を維持

できている。

- ・大きな病気や怪我などもなく、欠席者も少なかった。
- ・栃木県社会福祉施設感染防止対策研修会を職員全員で視聴した。
- ・A チーム、B チーム各エリアで発熱者発生を想定したシュミレーションを行った。

- 課題
- ・運動など取り組んでいるが、体重は依然増加傾向にある。
 - ・どうしてもマスクができない利用者がいる。

6. 職員会議、支援会議

(1) 職員会議

毎月1回開催し、管理・運営会議の決定、方針に基づき、事業所全般の業務執行に関する審議・決定を行ってきた。

4/18 (土) 余暇総括、土曜活動についてなど

5/23 (土) 余暇計画、緊急事態宣言中の工賃買い物創作クラブについて、ヒヤリハット(2件)報告、送迎変更など

6/20 (土) 余暇総括・計画、感染予防対策について、ヒヤリハット(1件)報告、就業規則の改定についてなど

7/18 (土) 余暇総括・計画、備蓄品の購入についてなど

8/22 (土) 余暇総括・計画、ヒヤリハット(1件)報告、研修報告など

9/26 (土) 余暇総括・計画、ヒヤリハット(1件)報告など

10/24 (土) 余暇総括・計画、研修報告など

11/28 (土) 余暇総括・計画、ヒヤリハット(1件)、研修報告、BCPの確認など

12/26 (土) 余暇活動・計画、研修報告、業務継続計画の確認

1/30 (土) 余暇活動計画、ヒヤリハット(1件)、発熱時の対応についてなど

2/13 (土) 余暇総括・計画、感染症対策訓練実施計画、ヒヤリハットなど

3/13 (土) 余暇総括・計画、給食の提供についてなど

(2) 支援会議

サービス等利用計画に基づいて家族の方や本人の情報を共有しながら計画の見直しを行い、支援会議にて個別支援計画の策定を行った。

ケース会議を通して、相談支援員や他事業所と情報の共有を行った。

職員会議と同日に開催、個別支援計画の策定やケース検討を行った。

また、縄岡好晴氏による縄岡セミナーを実施した。

課題として、年度途中での体制の変更があり、担当者が担当利用者の活動グループでの様子が見られずモニタリングを行う状態があった。

(3) 総括会議

2/6 (土)、13 (土) PM

【協議事項】

- ・令和2年度 事業報告及び年度のまとめ

3/6 (土)、13 (土) PM

【協議事項】

- ・令和3年度 事業計画及び年度方針

7. 職員研修

7月21日 広報力アップ研修 (青木)

8月 7日 口腔ケア研修 (板鼻)

10月 6日 職場内のメンタルヘルス対策 (板鼻)、相談支援 (後藤)

12月12日～14日 自閉症カンファレンス (青木)

12月16日 障害者アートの著作権と権利擁護 (青木)

12月26日 社会福祉施設完全防止対策研修会～動画視聴～

1月12日 強度行動障害者への標準的支援とは
(成田、板鼻、後藤、吉田、青木)

その他大妻女子大学 人間関係学部 助教 縄岡好晴氏による研修

8. 安全・安心

(1) 防災管理

消火、通報、避難誘導の訓練を実施した。

① 6月10日 (水) 13時30分～

② 11月24日 (火) 13時30分～

※課題として避難後の報告がスムーズに行えなかった。

消防署立入検査 12月24日 (木) 指摘事項なし

備蓄品 (保存水、安心米、簡易トイレ) を購入した。

災害時における防災マップ、関係情報一覧表の掲示をした。

送迎中の災害についての通知を配布した

(2) 危機管理

事故・ヒヤリハット

・利用者 5件 (転倒、薬の飲み忘れ、無断外出など)

・職員 3件 (車両事故)

毎月事故・ヒヤリハットを職員・支援会議で報告・共有し、その後の対応を話し合った。

にこり・ほっとしたことを発表する場をつくることになっていたが報告が
上がらなかった。

(3) 苦情解決

受付 0件

ちょっとした苦情は言いにくいし、拾いにくい。どんな小さなことでも話しや
すい関係づくり必要。課題として残る。

(4) 虐待防止

毎月の職員会議で虐待と感じたことを話し合った。

会議で話し合ったことで虐待を意識し、虐待防止への感心を高めることがで
きた。

家庭からの要望により安全確保のために車いすに乗っていただいている方に
は、身体拘束に関する説明書の記入をしてもらった。

発作やパニックなどの対応も様子を詳しく記録した。

9. 送迎の実施

- ・坂下コース、坂上コース、南コースの3コース運行

新型コロナウイルス感染症対策として、乗車が密にならないよう坂下コース
を2コースに坂上コースを2便に分けて運行した。

送迎時には窓を開け換気をしながら走行し、各車両に空間除菌剤を設置した。
車両は使用する度にアルコール消毒を行った。

- ・車両の定期的な拭き上げ、洗車を行ったことできれいな状態を保てた。

10. 地域・関係機関との連携

(1) 広報・宣伝

広報紙の発行、HPの更新管理

- ・【かいごだより】を【ダック通信】に改名し、毎月1回発行した。

また、号外も2回発行した。

- ・フェイスブックでの広報活動を行った。(余暇活動、創作クラブ、日常の様子
などおこなった。1つの原稿に「いいね」は10人前後あった。)

- ・CCVだより発行のための広報委員会に参加した。

- ・新しくなったHPの情報更新やブログの発信を行った。。

(2) 家族支援

- ・個々の家族との面談の機会をもった。

- 連絡帳のやり取りや送迎時など家族とのコミュニケーションを持ち、家族からの要望に応じてきた。
- 家族からの急な送迎の変更などに対して柔軟な対応を行った。
- 会費の取りまとめや文書の配布等家族会に協力した。

(3) 特別支援学校、学級実習生の受け入れ

予定していた実習生の受入が新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言に伴い、延期となり今年度の実習生の受入はなかった。

利用につながる実習生の募集をしていきたい。

(4) ボランティアの受け入れ

社協を通じて年間の余暇活動を伝え、毎月の余暇活動に合わせて募集を行った。

- ダック周辺の掃き掃除や側溝清掃定期的にお願いした。
- 余暇活動クリスマス会に大道芸を披露してもらった。

日常の活動にボランティアさんの話しがあったが、コロナウィルス感染予防のため見合わせになっている。

(5) 関係機関

関係者会議（ケース検討会議）を定期開催することで課題と目標の共有ができた。相談支援事業所やグループホームなど本人を取り巻く環境で関わっている担当者や利用者の基本情報の聞き取り、状態把握、サービス等利用計画について確認を行った。

11. その他

環境整備

取り組んだこと

- 除草作業
- 大掃除
- 屋根の修理
- 駐車場の白線引き
- A チームの室内ガラス窓はずし（空気の流れを良くするため）
- コロナウィルス感染予防対策（飛沫防止パーテーション、アルコール消毒、換気など）

1. 総 括

新型コロナの影響がこれほどまで負担になるとは思わなかった1年であった。

その影響でウェルフェアの活動時間が短縮し、お昼から長時間利用をする方もでてきた。しかし、利用する時間が増えたことで散歩や畑作業で体を動かす機会等様々な活動をたくさん取り組むことができた。

野菜の苗を植えたり、収穫などは生活介護の利用者さんも一緒に行い楽しく取り組めた。

また、生活介護の余暇活動と一緒に参加したり、様々な場面でダック全体で力を合わせ共有できた1年となった。

大変な面もあったが、一人ひとりをより知ることができ、どう楽しめるかを考えながら過ごすことができたと思う。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	8	7	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	115
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働日数	21	21	22	21	19	20	22	20	21	19	18	23	247
延利用者数	98	64	113	136	120	120	144	124	128	118	119	141	1425
1日平均利用者数	4.7	3.0	5.1	6.5	6.3	6.0	6.5	6.2	6.1	6.2	6.6	6.1	5.8

※主な欠席理由…体調不良、家庭の都合

3. 担当職員

山本・池田・坂井 ※1日2名勤務

4. 年間支援実施内容

障利用者のニーズに合わせた作業を行うとともに余暇を充実させるための活動と支援を行った。

具体的な支援内容は、送迎・おやつ・散歩・DVD鑑賞・野菜作り・ゲーム・学習などくつろいだ時間を過ごすことができた。

開所時間 平 日 12:00~17:45

5. 成果と課題

成果

- 仕事の不安や困りごとなど傾聴を行った。
- 定期的にフロアー内の掃除など快適な生活環境を提供した。
- おやつ作りや準備の手伝い等楽しみの中で経験をつむ活動をした。
- 発語が困難な利用者には表情で汲み取る事が出来るように努力した。

課題

- 利用者を増やす日中一時支援のPR。
- 職員間の連絡や報告、相談の徹底など職員の職務・職責意識の高揚。
- 職員の専門性を高めるとともに、人権教育の充実、徹底。

6. 職員研修、職員会議、健康管理、衛生管理等実施内容

職員研修

10/ 2 行動障害の理解と対応について

12/26 社会福祉施設完全防止対策研修会～動画視聴～

その他大妻女子大学 人間関係学部 助教 縄岡好晴氏による研修

より良い支援の情報を得ることができ、職員のスキルアップにつながった。

職員会議

生活介護と合同で毎月1回開催した。また、その会議報告書を参加しなかった職員にも供覧した。

勤務の体制で職員3人がそろって会議をすることができない。

日誌を供覧し日々の状況を共有した。

利用者が困っている時など気づいた時にはその都度話をして情報を共有した。

健康管理

疾病の予防や早期発見、早期対応に努めた。

手洗い、うがいの慣行、消毒、体温チェック、こまめな水分補給など。

散歩を行うことで気分転換にもなり、コロナウィルスの影響で日々のリズムが崩れた利用者さんのストレス解消にもなった。

おやつ提供については賛否意見があり、今後アンケートを実施したい。

7. その他（建物等修理・修繕の実施、設備・備品等の整備内容等）

衛生面では、新型コロナウイルス感染症対策でより一層の注意をしなければならぬ中で清潔を維持、強化できた。

多目的室の壁面を毎月季節感のある構図で飾ってきた。